

地域の介護を支えるために 労働環境をリフトアップ。



天井走行式のリフトシステムを居室に導入したことにより、スタッフの労力を軽減し介護の効率性も向上。

「高齢化日本の活性化」を目標に、1999年の事業開始からさまざまな介護関連ロボットを導入するなど、先進の福祉機器による新しいオペレーションに取り組んできた、特別養護老人ホーム 海光園。スタッフの労働環境を向上させるとともに、安全・安心のある質の高い介護サービスの提供に努めています。

2013年には、いち早く床走行式の介護リフトシステムを採用。そして2018年10月には、利用者にシートを装着してリフトで体を持ち上げ、天井レールに沿って居室を移動して車いすに移乗する天井走行式リフトシステムを、3Fの3つの4床室に導入しました。居室内の内装設備を変更することなく、わずか4日間の短期工事によってレールの取り付けを完了しています。

リフトの利用者は自分で動くことができなかつたり、身体に力を入れることができませんが、リフトを使えば食事、入浴、排泄時などに安全に移乗していただけます。これによって介護スタッフの体にかかる負担を減らしながら労力を軽減。介護の効率性を高めるとともに、利用者からも「いつも抱えてもらうのは申し訳なかったから、このほうがいい」など、好評の声が寄せられています。



熱海の穏やかな自然に包まれた海光園は、1999年3月に竣工した。

特別養護老人ホーム 海光園 天井走行式リフトシステム導入工事

- 導入年月 / 2018年10月
- 所在地 / 静岡県熱海市上多賀1016-10
- 施主 / 社会福祉法人 海光会
- 定員 / 80名(個室46床、多床室34床)
- 設置場所 / 3F多床室 3室
- 設置数 / 6セット



2018年には、トイレを利用できる人のため、共用トイレの改修も実施。便器を交換したほか、明るくて癒しのある壁紙に変え、行きたくするようなトイレ空間を創造した。



voice 生活相談員の方からの声

2人での介助を、1人にすることができました。



防災係 係長
生活相談員
出野光秀さん

熱海市は、2019年4月の調査では高齢化率が47%を超えています。そうした状況下でスタッフを確保するためにも、安心して働いてもらえる環境づくりが大切です。今までは重度の方の移乗には介護スタッフが2人必要でしたが、リフトによって1人でできるようになり、利用者の安心も増したと思います。ゆとりが生まれ、乗り降りする際に介助者と向かい合って会話ができるなど、コミュニケーションの手段としても思わぬ効果が生じています。

voice 機能訓練指導員さんからの声

スタッフの腰痛や疲労感が改善されました。



機能訓練指導員
小野耕平さん

特に体の大きい人を移乗させる介助は、今までは本当にたいへんでした。それが、アンケートによる評価では、従来はスタッフの90%が腰痛や疲労感を抱えていたのが、リフトの使用で55%が改善されたと答えています。また、利用者はタオルを使って2人で介助していた時よりも安全に移乗でき、擦れることで生じていた表皮剥離がほとんどなくなりました。痛い思いをせずにご利用してもらえるのは、介助する側もとてもうれしいことです。